

# 宮城県図書館のルーツを訪ねてその3

## ～仙台藩 叡智の礎「伊達文庫」～

昭和20年(1945)の空襲によって、すでに疎開していた図書約9000冊を除き、宮城県図書館の蔵書はほぼ失われました。戦後、資料収集を精力的に再開する中で、昭和24年(1949)に仙台藩主・伊達家ゆかりの蔵書、「伊達文庫」が収蔵され、図書館再建にとって大きな力となりました。現在、「伊達文庫」は本館特別コレクションの中核を占めており、県指定有形文化財である『禽譜』『生計纂要』など多数の貴重な資料が含まれています。本号では特集「宮城県図書館のルーツを訪ねて」の第3回として伊達文庫をご紹介します。

### 伊達文庫の成り立ち

「伊達文庫」とは仙台藩の歴代藩主が収集した蔵書と『伊達治家記録』『伊達世臣家譜』などの藩政資料によって構成され、昭和24年の収蔵に際して伊達文庫の名称が付されました。「文庫」とは、元来は「ふみくら」、書物のくらの意味で使われました。図書館では、一括して収蔵したひとまとまりのコレクション(蔵書群)を、一般の蔵書と区別して、蒐集した人や寄贈者の名称を冠して「○○文庫」という名称を付けることがあります。

本館は、昭和24年、伊達家の旧蔵書を購入により、特別文庫(特別コレクション<sup>1</sup>)の一つとして収蔵しました。資料総数は4170点(29681冊)にもものぼり、和古書3253点(19197冊)、漢籍666点(9980冊)、洋書251点(504冊)から構成されています。

これら伊達文庫の資料は、『仙台領国絵図』『仙台下絵図』等の古絵地図、『関算四伝書』(戸板保佑編)『禽譜』(堀由正敦編)『生計纂要』(大槻玄沢訳)等の博物学関係の研究書、『尉繚子直解』『音点春秋左伝詳節句解』等の朝鮮古刊本など、22件が、宮城県指定有形文化財となっています。また、伊達文庫はコレクションとしての網羅性、体系的についても極めて優れていると、高く評価されています。



本館貴重書庫内の「伊達文庫」の棚

### 門外不出であった歴代藩主の蔵書

仙台藩祖伊達政宗は、智略に長けた武将であったと同時に、和歌などに造詣の深い教養人でした。政宗が日常的に読書を楽しみ、詩歌に親しむ様子は「第一御気マメニ御座シ…其間ニハ書籍ヲ見玉ヒ、又詩歌文字ノ御吟味アリ」(『貞山公治家記録附録』)などと記されています。

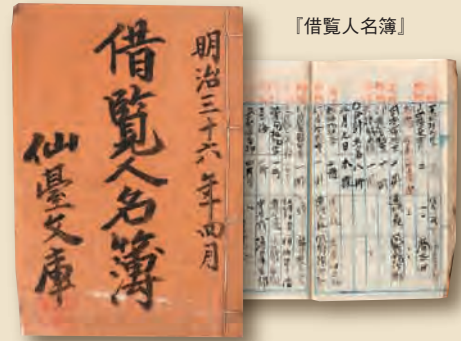
また、第5代藩主伊達吉村は歌人としても名高く、歌書の収集を積極的に行っていました。京都歌壇の名だたる歌人たちと交流し、作歌の指導を仰いでいます。吉村の蔵書印があるもの141点の内、108点が歌書であり、吉村の和歌に対する真摯な姿勢を垣間見ることができます。

政宗を始めとする歴代の仙台藩主の下で集められた書物は、仙台城内においては、二の丸の「御物置」と呼ばれる書庫に収められていました。書物はよほどの必要がない限りは門外不出とされており、家臣が御物置の書物を利用する際には、「他言しない、写し取らない」との誓詞を出さなければならぬほどでした。



『観瀾閣蔵書目録』

こうして仙台藩の隆盛とともに集積した書物は、明治維新以前の仙台における「五大文庫<sup>2</sup>」の一つとされ、和算や典札書、歌書など、文武両道を重んじた伊達家の家風を反映する文庫となっています。



「借覧人名簿」

\*1 宮城県図書館の特別文庫(特別コレクション)は、「伊達文庫」の他には、「青柳文庫」「養賢堂文庫」「小西文庫」「今泉文庫」「大槻文庫」等があります。

\*2 「五大文庫」とは、「青柳文庫」(仙台藩公開文庫、青柳文蔵の旧蔵書)、「養賢堂文庫」(藩校養賢堂の書庫)、「法宝蔵」(龍宝寺の書庫)、「名山蔵」(塩竈神社祠官藤塚知明の書庫)、「伊達文庫」(仙台藩主伊達家の書庫)の5つといわれています。

### 明治維新後の伊達家蔵書と仙台文庫会

明治元年(1868)9月、第13代藩主伊達慶邦は仙台城を退き、10月官軍入城するその間藩主の道具、書物類は仙台一本杉の伊達家別邸(現在の仙台市若林区一本杉)に運ばれました。また江戸藩邸の道具類も一本杉邸に運ばれましたが、混乱の最中に失われたものは少なくないといわれます。やがて旧仙台藩土佐並清亮(1841-1915年、藩校養賢堂に学んだ儒者、伊達家の家扶)は、それら道具書籍類を整理し目録を作成しました。

明治26年(1893)、清亮は旧仙台藩士の有志と共に「仙台文庫会」を結成、仙台藩関係資料の収集を進めると共に、明治29年(1896)に仙台市東三番丁に書籍閲覧所を設けました。同年、伊達家は蔵書のなかから冊子体の和漢書を選んで仙台文庫会に寄託し、伊達家蔵書が初めて公開されたのです。仙台文庫会は明治37年(1904)に解散し、寄託資料は再び伊達家に返却され、本館に収蔵される時を静かに待つことになりました。

### 伊達文庫の蔵書印

伊達文庫の資料には数種類の蔵書印が押印されており、収蔵時期や所蔵者を探る手掛かりとなります。伊達文庫蔵書の多くには、「伊達伯観瀾閣図書印」という正方形の朱印があります。「伊達伯」とは伊達家の総本家の意、また「観瀾閣」とは伊達家の堂号のことで、伊達家から仙台文庫会への寄託した際の伊達家の所蔵を示すための押印だったようです。他には、第5代藩主吉村の蔵書印「璧」、漢籍の一部にみられる「伊達氏伯家蔵宝書」、仙台文庫会に寄託した際に、仙台文庫会が押印した「仙台文庫」があります。



伊達文庫の蔵書印 / 左から「璧」(第5代藩主吉村)、「伊達伯観瀾閣図書印」、「仙台文庫」

〈参考文献〉 『伊達文庫目録』宮城県図書館 1987年  
『宮城県図書館の貴重書』宮城県図書館 1994年  
『本食い蟲五拾年』常盤雄五郎著 今野印刷 1991年(復刻版)